

広報大洲

きらめき創造 大洲市
—みとめあい ささえあう 肱川流域都市—

2015
No.128

9

大洲

ADA MONOGATARI

たぬき駅長 歓迎の手振り

がんばる大洲っ子

今月の題字作成者

大洲小学校 6 年（現：大洲南中学校 1 年）

鎌 田 ^{なな}七 ^み海 さん



私は読書が好きです。ジャンルは特に決めずに、家にある本を手に取り、時間がある時に読み進めます。最近読んだのは「アンネの日記」で、一言では言い表せませんが、今の時代の生活からかけ離れた隠れ家での日常をつづった日記は、とても興味深かったです。

私は絵を描くのも好きで、思い立ったときに手近にある雑貨や文房具を短時間でスケッチします。中学校では美術部に所属していて、現在は大洲のまちなみの風景画を制作中です。この歴史を感じる古いまちなみが私は好きで、今後いろいろな角度から描いてみたいと考えています。

具体的な夢や仕事などは、今後の中学校生活でしっかり考え、将来も大洲に住み続けたいと思っています。

9月の納税など

納期限は 9 月30日(水)です。

税 別	9 月	10月	11月	12月
市 県 民 税		3 期		4 期
固 定 資 産 税	3 期		4 期	
軽 自 動 車 税				
国 民 健 康 保 険 税	3 期	4 期	5 期	6 期

市税などの納付は、便利で安心な「口座振替」を。

現在の大洲

	人の動き(先月比)	交通事故(昨年同期)
人口	45,780人 (－ 10)	件数 104件(89 件)
男	21,840人 (14)	死者 2人(3 人)
女	23,940人 (－ 24)	負傷者 139人(118 人)
世帯数	20,277世帯(3)	

(2015年 7 月末現在)

CONTENTS 目次

2 ページ	がんばる大洲っ子・今月の表紙
3 ページ～	(特集) 甦った参籠殿 ～少彦名神社参籠殿修復事業～
8 ページ～	シリーズ
12ページ	まちのわだい
13ページ～	おおずニュース
15ページ～	おしらせ
25ページ～	図書館・保健センター・ 心と体の健康ガイド
28ページ	がんばるひと (大洲まぼろし探偵団本舗)

今月の表紙

picture 写真



7月25日(土)、伊予灘ものがたり運行開始から1年間、列車への手振りを続けてこられた五郎地区のみなさん取材しました。

この日も五郎駅では「たぬき駅長」こと井上金徳さんをはじめ、地域のみなさんの温かいおもてなしの手振りがいつものように行われました。列車内からも、笑顔で手を振り返すたくさんの乗客の姿が見られました。



よみがえ さんろうでん
(特集) 甦った参籠殿
すくなひこな
～少彦名神社参籠殿修復事業～



(清水寺本堂：写真提供・河辺中学校)

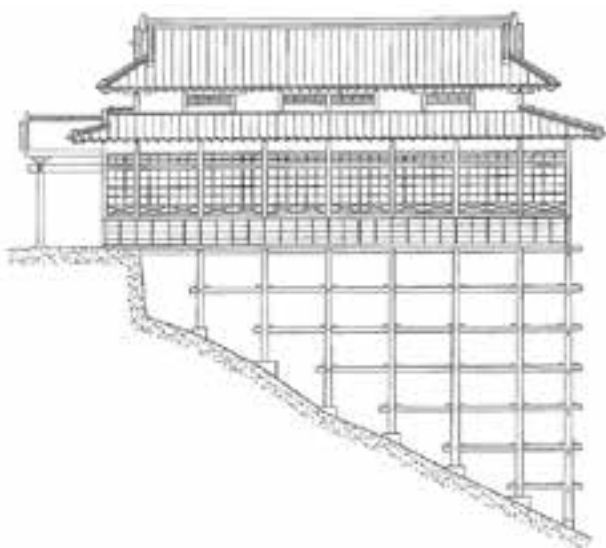
世界的に珍しい建築様式「懸け造り」

「懸け造り」とは、急峻な崖や山の斜面、川岸、海岸、池畔などで、一部分を斜面あるいは水面に張り出して建てることやその建物を指し、「懸崖造り」「崖造り」「舞台づくり」とも言います。京都にある清水寺本堂の舞台が有名です。

基準法からはずれたため、新築はもとより修理もままならない状況です。そのため、現存する懸け造り建造物は減少する一方であり、建築界の絶滅危惧種に属する構造と例えることができます。

この「懸け造り」は、山間地の多い日本において、地理的条件を克服するために生まれた、歴史的・伝統的な建築様式のひとつです。現在では、規模によって現行建築

「懸け造り」には、建物の2辺が地面と接する「二方懸け」や1辺のみ接する「三方懸け」、地面に接することなく、全てが柱で支えられている「四方懸け」があります。



「少彦名神社参籠殿（三方懸け）南東側立面図」
(作図：1級建築士 二宮一平さん)

日本の懸け造り

現在、日本国内に懸け造りの建造物は、東北地方から九州・沖縄地方まで33都府県に140件以上が存在しています。

都府県別では、長野県に最多の23件があり、滋賀県16件、京都府9件、鳥取県8件、奈良県・大分県7件と続きます。

懸け造りの建造物は、そのほとんどがお寺や神社ですが、なかには温泉宿や城跡（一部復元）、高校敷地内にある茶室、高校の体育館などもあります。

四国地方には、香川県・高知県にそれぞれ1件、徳島県に2件、愛媛県に3件、合計7件の建造物が存在しています。

愛媛県内にある3件は、全てが大洲市内にあります。その3件とは、「二方懸け」の臥龍山荘不老庵（大洲）、「三方懸け」の如法寺毘沙門堂（柚木）、少彦名神社参籠殿（菅田町大竹）です。

大洲市に残る懸け造りの建造物

不老庵は、肱川随一の景勝地といわれる臥龍淵にたたずみ、臥龍院・知止庵の建造物とともに臥龍山荘と呼ばれています。

数寄屋造りの不老庵は、肱川にせり出すように造られていて、庵そのものを船の帆に見立てています。月夜には、網代張りの一枚天井に川面の月光が反射するような工夫が施されています。

木蝨や絹の貿易で財を築いた本市出身の実業家河内寅次郎により、構想10年、施工4年、約9000人の労力をかけ、明治40年（1

907）に建立されています。

なお、臥龍山荘は、平成23年にミシラン・グリーンガイド・ジヤポン一つ星に選ばれています。

如法寺毘沙門堂は、大洲藩の菩提寺である如法寺の山門手前にあり、明治41年（1908）に建立されました。現在は、老朽化が激しく半壊状態となっていて、その保全が課題となっています。

少彦名神社参籠殿は、増水した肱川を渡河中に流されて常世の国へ旅立ったという言い伝えのある少

彦名命を祀る神社として昭和9年（1931）、地元有志の寄付により建立されました。日本各地に残る懸け造りは、大半が明治時代以前に建てられていて、昭和初期に建てられた近代建築としては、希少な例であると考えられています。

この参籠殿は、傾斜約30度の急斜面に建てられていて、建物の93%が地面に接していない代表的な「三方懸け」です。床下の懸け部分は8・3メートル、床上4・5メートル、通し柱の長さは13メートルにもなり、市内に残っている3件の建築物のなかでも最大規模となっています。



臥龍山荘 不老庵



如法寺 毘沙門堂



少彦名神社 参籠殿



(写真提供：おすくな社中)

甦らせるために

少彦名神社は、「おすくなさん」の名称で地元の人に親しまれていました。しかし、時代とともに訪れる人が減少し、荒廃が進んでいました。

神社再興のため地元有志で結成された「おすくな社中」を母体とし、建築技術・様式ともに優れ、歴史的価値も高い参籠殿を修復保存しようと「少彦名神社参籠殿修復実行委員会」が結成されました。

修復や周辺整備にかかる費用は全て寄付金で賄われたため、資金集めは難航し、たびたび工事が中断することがありました。しかし、篤志者からヒノキ43本が提供されるなど、多くの人からの支援を受けて修復活動は進んでいきました。

平成25年10月に、ニューヨークに本部を置き、歴史的建築物などの保存運動を行う民間の非営利団体「ワールド・モニユメント財団(WMF)」が選定する危機遺産リスト「文化遺産ウォッチ」に登録されました。この登録により、参籠殿修復の助成支援が世界に向けて発信されました。



- ①～③ 樹木に囲まれ、屋根・床板に穴が開いていた、修復前の参籠殿
- ④ 屋根に防雨シートがかけられ、修復のための足場が組まれた参籠殿
- ⑤ 修復に使うヒノキの樹皮を剥ぐ体験イベントの様子
- ⑥ 周辺整備（清掃活動）の様子
- ⑦ 建築当時に使われていた大鋸を使って木材を切っている様子
- ⑧ WMF「文化遺産ウォッチ」登録を祝う関係者
- ⑨⑩ 修復後の参籠殿内部と外観

過去から受け継いだものを大切に守るとともに利活用し、これから先の未来へと引き継いでいくことが今を生きている私たちの使命だと思います。

私たちには見慣れた建築物や風景であっても、世界的に見れば非常に価値のあるものがまだまだあるかもしれません。

参籠殿の修復完了により、今後は地域の催事や集会のみならず、さまざまな文化の発信基地として使ってもらうことが「おすくな社中」のみなさんの願いだということです。

同年12月にはWMFを通じて、ハワイに本部を置きアメリカとアジアの国際交流、教育、文化に対する支援を行っている「フリーマン財団」からの支援が決定しました。これにより、参籠殿本体の修復が完工し、平成27年3月に竣工式が行われました。現在、歩道およびトイレの周辺整備の最中で、9月末には完了予定です。

平成26年6月には、不幸にも棟梁の転落死亡事故が発生し、作業が中断されました。修復活動は中止になるかと思われましたが、安全策を見直し8月から作業が再開されました。